



かかバやく子ども

～自立と共生の礎を培い、今と未来を豊かで創造的に生きる子どもを育てる学校～

もっとチャレンジ!～かんがえる子ども すすんでする子ども 共に生きる子ども～

国立教育政策研究所指定研究 第一年次発表…

たくさんのご参加ありがとうございました。

現在、本校では国立教育政策研究所の研究指定を受け、算数科の指導の充実や改善をめざした実践的な研究を進めています。

1月26日には、第一年次の発表として、“学校の取組説明会”“授業公開”“講演会”を開催させていただきました。

授業公開(学習参観)にだけでなく、講演会にもたくさんご参加いただき、とてもありがたく思っています。厚くお礼申しあげます。

参加いただく方の数が次第に増え、授業公開では、保護者の皆さまだけでなく、地域の方や他校の先生方の姿も多数お見受けすることができました。

また、最後の講演会は、会場の音楽室がいっぱいになり、パイプ椅子を追加で運び込まなければならなくなるほどでした。

滋賀大学大学院の畑准教授からは、子ども一人ひとりによって異なる思いや受け止め方、子どもを取り巻く社会の様子やそのなかで何を大切にしたい子育てをしていけばよいかなどについて、ご自身の小学1年生の双子のお子さんのエピソードを交え、わかりやすく、おもしろくお話しいただきました。

参観いただいた学級では、『共学び』を通

して、自分で考え、主体的に課題を解決しようとする子どもたちのがんばりを感じていただけたのではないのでしょうか。

研究実践はこれからも続けます。

今後もますますのご理解とお力添えをよろしくお願いします。



《畑准教授のお話》



《Pepper もお出迎え》



《授業公開の様子 3枚とも》



本通信1月9日号で、公益財団法人日本ダウン症協会（JDS）が発行された子育て手帳「+Happy しあわせのたね」に掲載されていた「オランダへようこそ」という一文を紹介したのですが、もう一つのすてきなメッセージがありましたので、前回と同じくJDSの許可を得て転載させていただきます。

※公益財団法人日本ダウン症協会（JDS）発行 子育て手帳「+Happy しあわせのたね」から転載 出典「勇敢な赤ちゃん」

2007年7月30日かんたろうブログ「休憩促進委員会☆」より・モコ当時5ヶ月

先輩ママからのメッセージ by かんちゃん

「勇敢な赤ちゃん」

ダウン症の赤ちゃんは、育てられる人のところにしか産まれて来ないって。

私、選ばれた。

なんて思ってたけど、最近ふとこんなことを考えた。

1000人の、これから産まれる赤ちゃんがいます。

この中で、誰か一人だけ、障がいを持って産まれなければなりません。

みんなためらう中、勇敢な一人の赤ちゃんが、名乗り出ました。

「みんなが嫌なら、ぼくが障がいを持って産まれます。

ぼくは障がいがあることが不幸ではない

ことを知っているから。」

勇敢な赤ちゃんに心を打たれた

神様は、その赤ちゃんに、障が

いと一緒にたくさんの幸せを持たせてあげました。

そしてとびっきり愛してくれる家族のもとへ舞い降りられるように。

それが、モコ。

モコがあえてダウン症を選んだの。

勇敢な、私の子だから。

あなたの元に舞い降りた、勇敢な赤ちゃん、大切にしてくださいね。



（2007年7月30日かんたろうブログ「休憩促進委員会☆」より・モコ当時5ヶ月）

卒業の日まであとわずか…

卒業の日（3月16日）まで、6年生が学校に通う日数だけを数えれば残り30日になりました。これから少しずつ、学校中にその雰囲気が色濃く漂ってくるようになるでしょう。

以前から彼らには伝えていたのですが、本年度の6年生はどんな卒業生になるのでしょうか。卒業していくにふさわしい卒業生に…、そして、自分たちらしい卒業生になってほしいと思います。

昨春にも6年生の保護者の皆さまにはお願いしたのですが、そんな卒業生のための卒業証書授与式は、厳かななか、旅立ちを祝うよろこびと別れを惜しむ温かさが充ちたものにしたいと思います。

授与式に臨む子どもたちの身なりなどについても、式中、子どもが無用なことを気にしてしまうことにならないように、また、華美に過ぎないように、ご配慮くださいますようお願いいたします。

